

第3回水道スマートメーターに関する現地視察会及び協議会 開催報告

日時：2016年5月18日（水）19日（木）

場所：神戸市（NTT 西日本ビルスマートメーター設置箇所、神戸市水道局浄水管理センター）

主催：公益財団法人水道技術研究センター

協力：神戸市水道局

出席：神奈川県企業庁企業局、川崎市上下水道局、東京都水道局、横須賀市上下水道局

横浜市水道局、神戸市水道局 オブザーバー参加：大阪市水道局、金沢市企業局

1. 開催概要

参加事業者が推進する水道スマートメーターの実証実験では一定の成果が確認されつつある。そこで、神戸市水道局の協力のもと、実地視察を通じて、実証の目的や内容、現地状況を把握した。第3回協議会では各事業者におけるスマートメーターに関する現状と課題を報告し合い、今後の水道事業におけるスマートメーターの活用について、電気・ガスとの共同検針のあり方などのケーススタディを実施し、水道事業への適用を継続検討していくこと等を協議した。

2. 現場視察 5/18（水）

（1）実証実験について

- 2015年7月、神戸市、NTT 西日本、ミライト・テクノロジーズ、センサス・ジャパンの4社合同で実験を開始した(2017年3月まで)
- 280MHz 無線帯利用で長距離通信が特徴
- 市内全10箇所で開催（最長6.5kmの無線）
停滞水対策での常時排水箇所などを選定



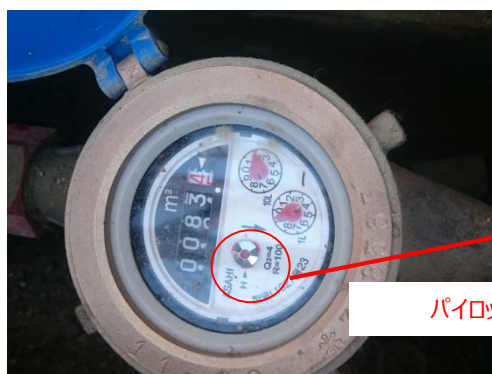
実証試験 検針状況

（実証用途につき本体と無線機が別設置）

（2）神戸市の報告

- 自動検針だけでなく、漏水検知や水道運営管理に係わる技術蓄積に期待を寄せる
- 工業用水道、別荘地、オートロックマンション等への導入の可能性を検討中
- 電波伝搬は概ね良好
- スマートメーターは既存メーターが計測できない微量流量（不感知水量）を検知可

水道メーター(既設 直結設置)



水道スマートメーター（SENSUS社 iPERL）



パイロットの回らない微量流量（不感知水量）を検知

3. 協議会及び浄水管理センター視察 5/19 (木)

<p>9:30 ▼ 11:00</p>	<p>第3回水道スマートメーターに関する協議会</p> <p style="text-align: right;">神戸市水道局浄水管理センター 2F</p>
	<p>協議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各事業体の取り組み状況について報告。 ●スマートメーターの機能を「計量」単体で捉えるのではなく、伝達(通信インフラ)、利活用(ビッグデータ解析)の3つの側面で捉えるべきで、自動検針の代替用途とだけ捉えず、管網管理や水運用など水道業務全体で捉えるべき。 ●スマートメーターの議論は、例えばメーターBOXの構造、材質の変化をもたらす。業界への波及範囲は広い。水道技術研究センターは新技術情報の収集を継続する。 ●電気・ガスとの共同検針化のケーススタディを進める。 ●次回開催予定 横浜市 8月頃
<p>11:00 ▼ 12:00</p>	<p>テレメータ・テレコントロールシステム見学</p> <p style="text-align: right;">神戸市水道局浄水管理センター 3F</p>
	<p>大容量送水管奥平野立坑見学</p> <p style="text-align: right;">神戸市水道局浄水管理センター敷地内</p>
	<p>大容量送水管整備事業</p> <p>事業概要</p> <p>本線延長 : 12.8 km</p> <p>口径 : 2.4m</p> <p>計画送水能力 : 1日最大 40万m³</p> <p>事業費 : 約 370 億円</p> <p>工期 : 平成 8 年度～27 年度</p> <p>【目的】災害時における円滑な給水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送水が停止した場合であっても管内に貯留された水 (59,000m³) を応急給水に利用できる。 <p>全市民約 154 万人に対して、1 人 1 日 3 リットルとした場合、約 12 日間分の水量に相当)</p>

